２０２５年
３２７号
8月20日（水）

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
（越労連内）
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

新しい執行部で力を合わせ頑張ります
組合員の皆さん、力をお貸しください

令和の米騒動に始まる狂乱物価、物価値上げの波はとどまる気配はありません。

５年に一度の年金制度見直しの年ですが、通常国会で自民・公明・立憲民主が賛成し、マクロ経済スライド等含む先送りを決めてしまいました。

年金生活者にとっては非常に大変な状況となっています。

「消費税は社会保障費の財源であり、減税はあり得ない」と石破首相が叫んでいましたが、今話題となっているガソリン代の暫定税率（２５．１円）を廃止するかどうか協議会を設置することになりました。ガソリン暫定税率は、田中角栄内閣時代に、特定財源の「ガソリン税」として徴収し始めました。昔は道路新設の工事現場に、「この道路はガソリン税により新設しています。」という看板が設置されていました。その後２００９年に特定財源の「ガソリン税」を一般財源に編入したため、「ガソリン暫定税」として現在までに至っています。消費税は社会保障費のために使用していると説明していますが、社会保障費の為だけに使うのであれば特定財源として他の目的には使用できないようにすれば良いが、現実は一般財源として徴収しています。自公政権が参議院でも過半数を割り、新しい政治情勢になっています。

野党がこぞって公約した「消費税減税」が、現実のものになってきています。

年金者組合は「楽しみ7分・活動３分」で、新しく「折り紙サークル」「麻雀クラブ（準備会）」を始め、皆で今年も楽しく活動をしていきたいと思います。

皆さんの力をお借りし、一年間活動していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

年金者組合越谷支部
支部長　和田　幸雄

越谷支部　第33回定期総会

７月29日（火）13時より越谷市北部市民会館の第３会議室で越谷支部の第33回定期総会が開かれました。

議長には３班の伊東正隆さんが選出されました。

総会は組合員数２１０名中、参加者36名、委任状１２９で組合員の過半数を超え総会は成立しました。

和田支部長の挨拶の後、来賓として石井県本部副委員長、河田越労連議長、越谷社会保障協議会の斎藤会長、民主市政をめざす越谷市民の会の大里代表、越谷市民ネットの清水市議会議員、日本共産党越谷市議団の工藤市議会議員から祝辞をいただきました。

また、福田越谷市長、埼玉土建一般労働組合越谷支部の関口支部長、新日本婦人の会の高橋支部長、埼玉東民主商工会の木村会長、全日本年金者組合松伏支部の金橋書記長、ＮＥＸＴ越谷の浅古市議会議員、平和・民主・革新の日本をめざす越谷の会の米川代表世話人からメッセージが寄せられました。（２面へ続く）

点晴
コメ問題を考える

参議院選挙が行われ、結果は自公が過半数割れとなりましたが、大事な問題や国民の望む方向の議論も少なく、争点ずらしにより、曖昧になつてしまいました。

米の問題も大切です。

農水省が調べたコメ相対価格（玄米60キログラム当たり）は24年２月に１万５３３０円から、８月、１万６１３３円。

「新米が出れば値段は落ち着く」と、24年産新米の相対価格は９月に２万２７００円で、今年４月は２万７１０２円まで上昇しました。１年前の75％高に。

小売価格の値上がりが大きく、スーパーの店頭価格は５キログラム当たり４０００円を超し、２倍になった。

農水省は24年産のコメの生産量が前年に比べて18万２０００トンになり、「数字の上では需給は均衡している」「コメが流通段階で滞留している」「高値になることを見越して、農家や流通業者、新規参入業者が少しづつ手持ちを増やし、市場に出回るコメが薄くなった」と米不足を認めず、備蓄米放出も対策を取らなかった。米は政府米と自主流通米（１９６９年産米から制度化）があり、政府米の場合は生産者価格は毎年米価審議会の議論を経て政府が決定し、需給の見通しを農水省が決めて農協や関係者に示し、農協が買い上げる金額や量を決めている。

2024年までコメ需給量の予測を農水省が毎年10万トンと大きく増えるとされている。23年の生産量６６１万トン（水陸稲の収穫量、農水省より）。米の流通は、この他、自主流通米は生産者から直接買う業者による価格上昇もある。農家から少量の直接売買する価格量は把握できない。

コメがこんなに高くなってしまったのは単純に農水省が減反政策を続け、補助金を与えてコメの生産調整を行い、生産量は年々減少していた。米の増産と安定供給に国が責任を持つ農政を大転換し、減反・減産から増産し市場任せにせず、農家への所得補償と価格保償で農業の再生を目指し、農産物の輸入自由化路線をやめ、自国で作り、食料自給率を高め、国の農業予算を増やすことが必要です。

（川原利雪）

今回の配布物に「３つの大会代表派遣募金のお願い」袋が入っています。役員にお渡しください。
①2025・原水爆禁止世界大会　②第70回　日本母親大会　③第38回　日本高齢者大会